



イーハトーブ

3月15日号

3・11東日本大震災から11年が経過した。改めて「防災」「減災」の取り組みを進めていかなければならないと感じている。

先月、新潟県にある製菓工場で火災が発生し、正社員2名と清掃に従事していたアルバイト4名が亡くなった記事を見た。これまで、この工場では8回の火災事故が発生しており、消防署から設備等の改善が求められている中でこの事故であった。

事故に遭われた方は、防火シャッターの前で倒れていたそうだった。つまり、亡くなったアルバイトの4名は防火シャッターの横にある避難口が見つけれず、逃げ遅れにつながった可能性があるというのだ。

消防訓練は目中进行われ、夜間帯のアルバイトやパート従業員らは消防訓練に参加していなかったようだ。私たちは、非正規雇用者が命を危険に晒しながら働かなければならない現実、また非正規雇用者に限らず従業員の命を軽視する企業の本質があることを肝に銘じておかなければならない。

私たちが働くJR東日本会社も「変革2027」に基づいた「柔軟な働き方」によって、仕事の仕組みが大きく変わろうとしている。統括センター勤務や兼務により社員がさまざまな職場でいるような業務に就くようになる。業務量の増加や目ごとに変わる職場環境などは、命を守るための防災訓練をおろそかにさせないか。「安全」や「防災」の根本が揺らぎかねないと危惧している。

3・11東日本大震災では、被災した地域の方から日常的に訓練をしていたから避難ができて助かった、という証言がされている。災害大国の日本では、昼夜を問わず、正規雇用か非正規雇用に関係なく訓練が必要だということを訴えなければならぬ。

先達たちから語り継がれている「災害は忘れたころにやってくる」「備えあれば憂いなし」という言葉の尊さに想いを馳せ、私たちの命を守るために今どうすべきか考え行動しなければいけない。(K・S)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。